

入願の頃周旋した功により、天正十年十月十日御扶持高十五俵を賜はり、次いで十村役を命ぜられ、子孫世々之を襲いだ。

アラヤマ 荒山 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

アラヤマ 荒山 源平盛衰記詳永二年の條に、平軍が荒山に陣したとある。蓋し河北郡井上庄荒屋(今の西荒屋)を誤つたものらしい。

アラヤマカツセン 荒山合戦 (一) 温井軍の侵入―畠山氏の遺臣温井景隆・三宅長盛は、天正五年主家滅亡の後上杉謙信に歸し、八年又降を織田信長に容れたが、九年三月前田利家等が信長の命を奉じて能登の州事を管し、六月遊佐一族の罰せられるに及び、越後に奔りて上杉景勝の扶養を受けた。然るに景隆の臣小南内匠・筒井雅樂助・廣瀬隼人正・山莊藤兵衛・長盛の臣島倉内匠・小山田甚五郎等は、常にその主の爲に舊領を復せんとするの念を絶たなかつたので、十年六月二日信長の横死するや、石動山の衆徒にして景隆・長盛と親善なる者が、誓を發して機に乗じ兵を出すべきことを勧めた。七尾の前田利家は早くもそれを知つて、十九日尾山の佐久間盛政に誓を送り、若し事變の生ずるあらば援を得ることを請うたが、廿三日景隆等果して越中妻良浦に上陸し、即夜石動山に入つたので、利家は廿四日再び盛政に急遽來援を求めた。

日夜半七尾を襲ひ、廿六日石動山と荒山との中間芝峠に來たが、恰も堡壘修築の爲來る敵に會したから、直に兵を進めて戰鬪一二合を交へたに、景隆等は手兵と共に荒山に潛匿し、他は石動山に奔竄した。盛政の斥候之を見て、敵の荒山に入つたことを報じたので、盛政は直に之を屠らんと欲し、拜郷家嘉をして石動山の通路に備へしめ、種村三郎四郎を先陣として荒山の麓に追つた。是に於いて景隆等殊死して戦つたけれども、盛政の兵大に奮闘し、吉川五右衛門は景隆を、堀出新右衛門は長盛を殲し、般若院も矢に中つて櫻井助の爲に首級を獲られ、同宿荒中將は助助を射て般若院の仇を報いたが、やがて銃丸に中つて自刃した。山莊藤兵衛は多數の疵を得、樹蔭に隠れて憩うたが、景隆の死せるを見、その側に至つて屠腹し、筒井雅樂助も同じく戦死した。而して殘兵の石動山に向かつて逃走せんとしたものは悉く拜郷軍の獲る所となり、荒山の嶺全く陥落した。戦後盛政は野村助兵衛を遣はし、景隆・長盛・藤兵衛・雅樂助・般若院五人の首級を利家に贈らしめ、利家は村正の刀を助兵衛に與へてその勞を慰めた。

(二) 石動山の陥落―是より先、芝峠に着した利家の軍は石動山に至らんとし、先鋒高島定吉は大行院の東谷を上り、利家は侍大將長連龍・奥村永福・小塚秀正等を率ゐて仁王門に向かつた。時に天平寺に於いては、大衆盛に敵徒調伏の秘法を修しつゝあつたが、俄かに銃丸の音を聞き、門を開いて防戦した。定吉の土石野濲次郎、利家の土丸屋又五郎・富田助三・雜賀金三・篠原出羽・小塚八右衛門・寺岡與左衛門等、乃ち齊しく進んで、成就院小相模・法幢坊中記等を倒し、伊賀の忍組は衆徒の窟を窺つて火を堂宇に放つた。是を以て大衆退いて佛殿を保つたが、阿彌陀院俊慶・圓滿院・天狗坊・松月坊忠格・大宮坊飛騨・金藏院中將以下相尋いて死んだ。利家その斬獲した首級千餘を山門の左右に敷し、巨魁廿三人の首級は之を勝家に送り、且つ盛政の救援によつて運次の大勝を得たことを謝した。石動山の老幼降を請うた者は、利家皆之を宥して敢へて無辜を害しなかつた。利家又天平寺の神靈五社權現を伊影山に移して僧徒を懲らし、寺領中長氏の鹿島半郡中に散在せるものは連龍の請によつて新知として之を與へた。

(四) 戰鬪の時日―この合戦は世本多く上記の如く六月廿六日に係けるが、聞見雜錄(一名士林談叢)には七月廿五日とし、古老紀談には七月廿七日の間に一夜一日とする。また羽咋郡智原神社藏文書に七月廿八日附で利家から社僧常儀坊(成喜坊)・遍照坊に宛て、その守札等を贈つたことを謝し、猶期歸陣之時候といつてゐるから、七月説が正しいとも思はれる。殊に利家が柴田修理・佐久間立齋に與へて援兵を求めたといふ六月十九日附及び六月廿四日附の文書は眞偽疑はしい。

(五) 事後の状況―天正十二年末森の戦前に、越中の佐々成政は、その將神保氏張をして鹿島郡荒山の嶺を守らしめ、氏張はこゝに裨將袋井隼人を置いた。既にして利家は九月十一日成政の末森に追つたを逐ひ、十三日戰勝を秀吉に報じたが、その文中に『七尾に有之同名五郎兵衛・中川清六、越中内境目の荒山城へ被懸賣賣、城主之事は不及申、悉劍首候付而、鹿山同前落居候條、越中國へ付入候』とあるのは、事實を誇大にしたことは言ふまでもなく、その攻撃が何日であつたかも確實でない。次いで利家は十月十六日書を邊將青木善四郎・大屋助兵衛に遣はして、荒山の敵狀を監視せしめ、別に高島定吉をして勝山口に陣せしめ、並びに敵の退却せんとするを見れば、烽火を擧げて之を報すべきことを命じた。是を以て諸將は機に乗じて荒山を力攻したが、定吉はその祖直吉から傳へられた法華題目の赤幟を樹て、先登し、城將隼人を逐うたので、後に利家から荒山の守將を命ぜられたとあるが、これも時日が明らかでない。

アラヤマカツセン 荒山合戦記 一冊。

畠山氏の遺臣温井景隆・三宅長盛が天正十年石動山の衆徒と謀つて能登に侵入しようとしたのを、前田利家が佐久間盛政の援兵を得て、荒山及び石動山に撃滅したことを記してある。

アラヤマゴエ 荒山越 ↓アラヤマタウゲ 荒山峠。

アラヤマジヨウ 荒山城 河北郡五ヶ庄荒山に在つて、國界に近く、是より越中西瀨波郡南盤谷に越えられる。城地へは荒山川の附近より登られ、山上順次に八區の坦地がある。又城址から谷を隔てた所に荒山の部落がある。土人は佐々成政の哨堡であるといふが、越登賀三州志には佐久間盛政の置いた鎮寨であるとしてゐる。

アラヤマジヨウ 荒山城 鹿島郡芹川に屬し、石動山の西南四軒、荒山峠の北一軒餘にある。山上嶽を伏せた如くであるから樹形山ともいふ。天正五年上杉謙信の侵入した時、